

# 「城野遺跡公園(仮称)」の提案

2019. 9. 19

城野遺跡公園を実現する会

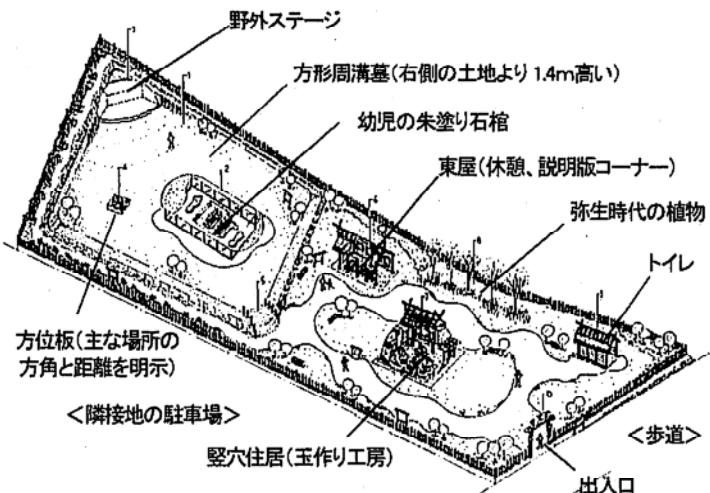
## <「城野遺跡公園」(案)イメージ図のコンセプト>

そこに立てば、1800年前の城野ムラの生き生きとした生活がイメージでき、また方形周溝墓部分の小高い丘にあがると、一種荘厳な葬儀の儀式的場が体感できるような空間を演出します。あなたも日本でも数少ない生と死の大地の歴史を迫体験しましょう！

## <整備のイメージ>

- ・ 城野遺跡で唯一保存がかなった方形周溝墓の当時の墓域の様子を迫体験できるように、陸橋を原位置で復元し、芝を張った小高い墳丘に向かう墓道とした。
- ・ 2基の箱式石棺は蓋石を両脇に置き、内部の様子とそれがかぶさった場面のイメージが沸きやすくしている。ここがメインの復元遺構なので、風雪に耐えるよう、覆い屋を設けたが、屋根部分の外観は墳丘の盛り上がりを表現している。
- ・ 箱式石棺の南側に方位板を設け、当時弥生人も仰ぎ見た足立山、また母なる川の紫川、その河口である響灘、箱式石棺の石材を運んだ蒲生地域、玉作り工房の原石を採取した水晶山など、城野遺跡にかかわりのある場所を表示した。
- ・ 周溝部分は、敷地範囲がすぐ間近に迫っているので復元が難しいが、箱形の溝の形状を活かし、墳丘部分と同様の芝を貼って、子供達が上り下りしても安全なよう、あえて葺石は置かなかった。また、周溝の外回りには四季折々の草花壇を配置してアクセントをつけ、周溝との差別化も意識している。
- ・ 墳丘の南東隅には、野外ステージを設置し、この場所でイベントを行う際のサテライトエリアとした。そのためベンチなどは置かず、多目的空間として様々なシーンを演出できるように配慮した。箱式石棺の幼児二人の死を悼み、また魂の再生を祈って歌舞飲酒する場もイメージしている。
- ・ 一段低い北側半分エリアには、東エリアで見つかった玉作り工房をイメージし復元した。内部は玉作り職員の人形による玉作シーンを描き、どのような技術で玉作りを行っていたのかを細かく表現している。覆い屋は竪穴住居跡にある藁葺きとし、周囲には芝を張り、その周りに周遊路を設けた。
- ・ 敷地奥には簡易なガイダンス施設の代わりに実際に見つかった側柱建物(東屋)を復元し、休憩所とするために椅子、テーブルを置いた。中の壁面には城野遺跡を中心に周辺遺跡の写真パネルや解説パネルを掲示し、遺跡の理解に役立つようにしている。
- ・ 幹線道路沿いに設けた入口は城野ムラのメインゲートをイメージし、穀物の霊を運ぶ鳥を門の横木に載せている。
- ・ 入口右奥(北西隅)には外観が高床式倉庫をイメージしたトイレを設置。見学者の利便を考慮した。
- ・ 東屋とトイレの間の緑地帯には弥生時代の植生環境を再現して当時の樹木、草花を植えて、解説パネルを用意している。
- ・ 遺跡公園周囲は生垣で囲い、2面に城野遺跡の概要を記す総合説明板を設置。

また、公園内には各所に遺構説明板とベンチを設け、日陰になるような樹木を配置している。



「城野遺跡公園」(案)のイメージ図

(山内正一氏作図)